

石狩川流域委員会（第16回） 議事要旨

■日 時：令和4年7月12日（火曜）15：00～16：00

■場 所：札幌開発建設部4階 1号会議室

■出席者：黒木委員長、中村副委員長、上田委員、岡田委員、片石委員、清水委員、山田委員（以上7名）

■議題

- （1）雨竜川河川整備計画〔変更〕（原案）に対する流域委員会委員からのご意見について
- （2）雨竜川河川整備計画〔変更〕（原案）に寄せられた関係住民からのご意見について

■議事要旨

- ・河川整備計画がどのような性格を持っているのか、改めて確認したいので、事務局より、文書の性格などを説明してほしい。（委員長）
→流域治水は、河川管理者だけでなく流域を挙げた取り組みが必要で、広範な内容を含む。その中で河川法に基づいて、河川管理者が実施する計画が河川整備基本方針、河川整備計画である。これらの計画は法定計画であるため、事業の詳細等を記載するものではなく、大枠として今後こういうことを進めていきます、という性格になっている。事業化の段階で詳細について地域に示していくものである。（事務局）
- ・雨竜川流域から天塩川流域にも水が放流されているため、地域として朱鞠内湖の位置付けが重要だと思うが、そのあたりをどういうふうを考えるべきなのか。（委員）
→実態として雨竜川流域の水が天塩川流域に放流されているが、天塩川の利水等はこれを前提としており、お互いの流域でそれを理解されているという状況だと思っている。（事務局）
- ・資料3の42ページに「グリーンインフラに関する取り組みを推進する」とあるが、雨竜川におけるグリーンインフラについて何を考えているのか、説明した方が良いと思う。また、水田貯留について、農業分野ではすでに水田貯留に対して交付金が出ていることを考えると、定量的な機能評価をすべきなのでは。（委員）
→グリーンインフラについて、この計画変更以前より、深川市をはじめ流域市町での田んぼダムの取り組みについて流域治水プロジェクトに位置づけられている。また、中流部では堤防を造らず、整備計画目標流量で一部氾濫を許容させるという計画も雨竜川の特徴である。
田んぼダム含め様々なグリーンインフラの効果は、定量評価に取り組んでいるところ

であるが、まだそのレベルにはない状況。今後、治水効果を恒久的に担保できるものは計画に取り込む方向である。(事務局)

- ・ 概要のような文章を付け加えたらどうか。(委員)
→ホームページの方に変更の概要等の形で記載することを検討したい。(事務局)

- ・ 本日頂いた意見について、どのように対応するのか、皆様の意見を頂きたい。(委員長)
→事務局と調整いただき、対応方法については委員長一任が良いと思う。(委員)
→それでは委員長一任とさせていただく。(委員長)